

震災後のアルコール関連問題に対するソーシャルワーカーの取り組み 石巻市における日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会の支援活動報告

一般社団法人日本アルコール関連問題
ソーシャルワーカー協会
被災地支援事業 藤田さかえ

はじめに

東日本大震災発災から5年が経過し、被災地の復興は、地域のインフラの整備事業が少しずつではあるものの確実に進んでいる。しかし、街づくりがその姿を現すには、さまざまな要因で時間がかかることはより明らかになってきている。平成23年の震災以後に始まった石巻市でのアルコール問題への取り組みは、平成27年度で5年の経過を迎えた。平成27年度の研修事業を『東部保健福祉事務所（石巻保健所）』の主催で、『みやぎ心のケアセンター』、『日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会』（以下、ASW協会）の共催で行い、コンサルテーションや個別支援は石巻健康推進課との連携で支援を行った。処遇が難しいとされてきた問題の対応に、地域の援助者たちは力を付けつつある。本稿では平成27年度の活動報告を行い、支援の内容とその成果、今後の課題を提起するものである。

1. 事業の目的

本事業は宮城県石巻市において、東日本大震災後にアルコール問題を抱えた住民のケアと、安定した日常生活への復興支援を行い、アルコール関連問題に対応する地域への援助者に対して、必要な知識や情報の提供とアルコール問題を抱えた住民の対応についてケース・コンサルテーションを行い、援助職のスキルの向上を計るものである。

2. 平成27年度の事業内容

事業目的を達成するためにASW協会は平成27年4月から平成28年3月まで毎月2回（第2金曜日と第4水曜日）、精神保健福祉士数名を石巻市へ派遣し、以下の内容の支援を行った。①ケース・コンサルテーション、②本人あるいは家族を対象とした相談面接、③仮設住宅などへの訪問を行う保健師への同行、④地域関係者との連携会議出席、⑤事例検討会、⑥住民向けの講習会の講師、⑦地域柄の援助職を対象とした連続講座や研修会企画・運営だった。個別支援については石巻市健康推進課がコーディネートを行い、ASW協会はマンパワーの提供を行うという協働体制だった。平成27年の派遣支援会員数は8名であり、そのうち個別支援に対応した会員は5名、研修の企画・講師として派遣したのは3名となった。なお、①②③④については平成27年度で終了となる。

3. 事業の経過とその成果

平成26年度から継続して個別支援である①②③④の対象となった支援は以下のとおりだった。（図1・2）対応数は8件（延べ回数は13回）、うち新規ケースは4件であった。訪問ケースは1件で回数が1回、家族相談は1件で1回、コンサルテーションやケース会議のみのケース数は7件、コンサルテーションの回数は8回だった。

図1 H27年度対応ケース内訳（新規・継続）

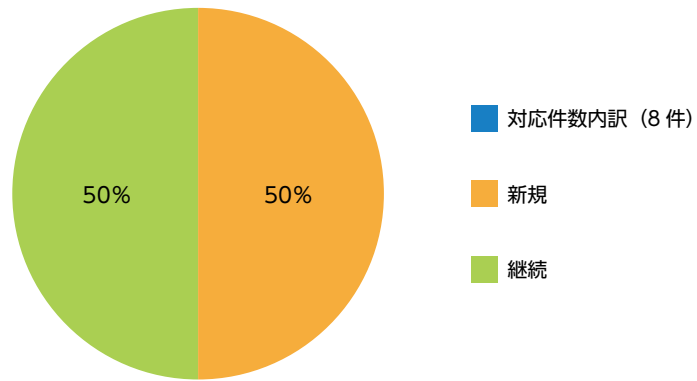


図2 H27年度支援種類別内訳

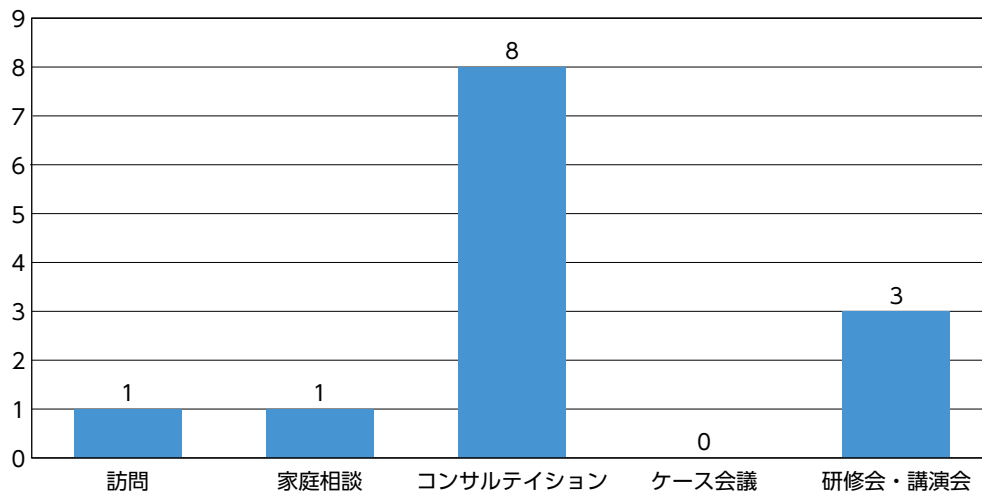


表1 ASW協会平成27年度個別支援担当者名

支援月	派遣会員	支援内容・件数
5月	佐藤光幸（東北支部）	コンサルテーション2件
7月	小関清之（東北支部）	依頼数なし
9月	佐藤光幸	コンサルテーション2件
11月	小関清之	コンサルテーション2件
1月	藤田さかえ	コンサルテーション1件・訪問1件・相談面接1件
3月	藤田さかえ	コンサルテーション1件

平成27年度は個別支援を継続すると同時に、地域の援助者を対象とした以下の研修を開催した。

①支援者研修プログラム

平成27年度の研修は、平成24年度から継続してきた研修内容をよりアドバンスの内容で企画した。

テーマは『地域連携のつくり方』で、地域の関係者との連携を構築する際の調整方法を学ぶなどが研修のテーマとして要望された。当初は計3回の研修でこのテーマで予定していたが、第1回の参加者にアルコール問題の研修が初めての参加者が多いことから、急きょ『飲酒問題を抱える人たちへの支援：アセスメントと支援計画』に変更して開催した。第2回・3回は『地域連携を考える』をテーマとした。第2回では連携の基本的な考え方と会議の準備について学び、第3回では連携会議の進め方の実際を講義と演習で学習する内容となった。地域の関係者たちは、震災後によりいっそうの連携を必要としている現状があるが、まだ連携に関して学ぶ機会が少なかったために、関係機関同士で開催に関する不一致や理解不足が見られるようになっていた。アルコール問題を学ぶ機会に連携の持ち方を学びたいとの要望があり、具体的なスキルを習得する研修が求められた。そういった要望を受けてASW協会が企画・開催した研修は以下のとおりである。

表2 平成27年度支援者研修プログラム

講義内容	講師	開催日	参加者数
飲酒問題を抱える人への支援： アセスメントと支援計画	岡田澄恵・藤田さかえ	平成27年7月10日	52人
地域連携を考える： 連携の基本的な考えとその準備	岡田澄恵・岡崎直人	平成27年10月19日	37人
地域連携を考える： 連携会議の進め方	岡田澄恵・藤田さかえ・岡崎直人	平成27年12月16日	31人

4. 平成27年度の成果と今後の課題

平成23年から継続して行ってきた支援の成果を踏まえて、平成27年度の研修は基本的な内容から応用編を企画していたが、実際の参加者の多くはそれまでASW協会の研修が未参加であったり、アルコール問題に関して困っているものの、何らかの着手をする前の段階の方々がいることが把握され、第1回の研修は基礎的な内容に変更して行った。第2回・3回の研修は『地域連携を考える』といった『連携』をテーマとしてその基本的な理解と知識を学ぶ内容で行った。参加者から「アルコール問題以外にも応用できて役に立つ」といった評価を得ることができた。『連携』をテーマとした背景には、地域の関係者との打ち合わせの中で「震災後に多くの援助職がそれぞれ地域の問題に対応するようになり、同時に連携が必要といった認識が高まったが、実際にどのように実践するかを学ぶ機会の無いままに現場が困っている」といったことが報告され、連携についてあらためて学ぶことが研修のニーズとして取り上げられたからである。地域に潜在的にあった『つながり』を援助するためには、研修や事例検討という形で学んでいくことを試みた一年となった。

また、平成27年度で終了する個別支援などの援助は、ASW協会が東北支部に所属しているベテランの会員たちが協力を惜しまず支援に向かい、保健師や地域関係者と直接に当事者や家族の相談を行い実践的な支援を行ってきた。その成果が地域の援助者の対応力に貢献し支援そのものが終了となった。平成27年度の研修の開催を通じて、地域のニーズは復興の経過とともに変化していくことをあらためて感じた一年であった。5年を経過する中で、まだアルコール問題に対して理解や援助の方法を知らずに、四苦八苦している援助者が潜在的にいることも明らかになった。平成28年度はアルコール問題に取り組む力をつけていくための基礎的な研修をより多くの援助者に応じられる研修を企画している。